ヒト味違う“オモシロ”さ！
FUJI

BUSINESS REPORT

FUJIビジネスリポート

第45期 － 平成21年4月1日から平成22年3月31日まで －

株式会社 藤商事

JASDAQ（証券コード 6257）

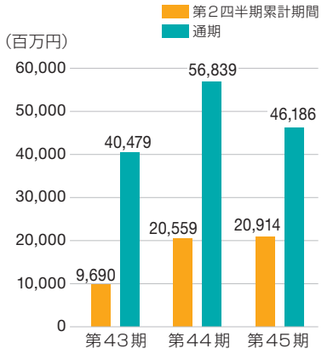
夢見る人に次々と。ヒト 味違う“オモシロ”さ！

Die Hard, Die Hard 2, Die Hard with a Vengeance, Live Free or Die Hard TM &
© 2009 Twentieth Century Fox Film Corporation. All Rights Reserved.
AVP TM & © 2009 Twentieth Century Fox Film Corporation. All Rights Reserved.
© 藤商事 © 東北新社 © 東映

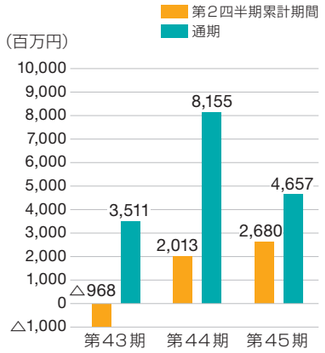
AVP TM & © 2009 Twentieth Century Fox Film Corporation. All Rights Reserved.

Die Hard, Die Hard 2, Die Hard with a Vengeance, Live Free or Die Hard TM &
© 2009 Twentieth Century Fox Film Corporation. All Rights Reserved.

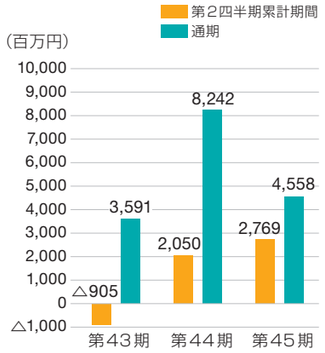
■売上高



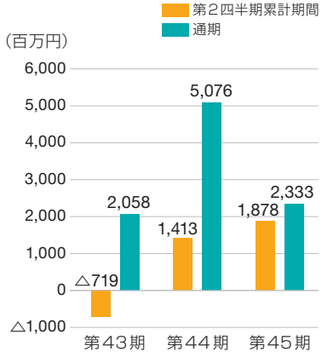
■営業利益



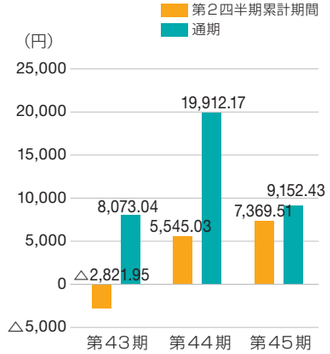
■経常利益



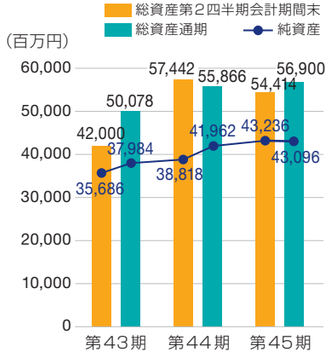
■当期純利益



■１株当たり当期純利益



■総資産／純資産



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

ここに第４５期ビジネスリポートをお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

当事業年度のパチンコ・パチスロ業界におきましては、パチンコホール様で低貸玉営業が広く定着したことや、パチンコ遊技機では、手軽に遊べるタイプの遊技機の充実が図られたことから、近年は減少傾向にあった遊技参加人口が増加に転じました。一方、パチスロ遊技機では今年の春先以降、徐々にではありますが、パチンコホール様での稼働に好転の兆しが見えてきました。

このような状況において、当社は、コーポレートスローガンであります「ヒト味違う“オモシロ”さ！」のもと、企画・開発部門が密に連携し、商品性・ゲーム性に優れた遊技機の開発に取り組んできました。特に、「演出力」の強化を図ることで、若者からご年配、女性など、幅広いターゲット層のニーズにお応えする努力を重ねてきました。

しかしながら、下半期以降に発売しましたパチンコ遊技機におきまして、厳しい商戦を強いられたことなどから、当初の業績計画は達成できませんでした。

私たちは、この結果を真摯に受け止め、企画・開発部門の体制を再構築するとともに、これまで築き上げてきた技術や経験を最大限に活かすことにより、ファンの皆様から支持され、長期間にわたりパチンコホール様で稼働するようなヒット機種の創出に、全社一丸となって取り組んでまいります。

株主の皆様には今後ともご指導・ご鞭撻のほど、心からお願い申し上げます。

平成22年6月

代表取締役社長

松元 邦夫

社長インタビュー

Q1 まずは、当期における各課題の達成状況をお聞かせください。

A1

当社が重点的に取り組んできた課題は3つあります。

まず1つめは、「安心してお客様に導入いただける品質ブランドの確立」です。高品質と新演出の両立をテーマに、業界初の「ラッキーパト」を搭載した新本体枠「クリスタルファイヤー」を市場に投入しました。その第1弾機種であります「CR新暴れん坊将軍 吉宗危機一髪！」シリーズは、爽快感あふれるゲーム性を追求しました。

2つめの「“ヒト味違う”発想による商品力の向上」については、斬新なスペックやゲームシステムを取り入れた「CR相川七瀬 時空の翼」を発売しました。時代のニーズとオリジナリティ豊かなアイデアの組み合わせが、販売台数の確保につながったと確信しています。

しかしながら、3つめの「業績計画の着実な達成」では、主力タイトルにおいて、大当たりへの期待感を高める演出などに対して、作り込みが不足していたことを痛感しています。結果として、販売台数が伸び悩み、計画を達成することができませんでした。

当期の発売ラインナップ　●上半期　●下半期

パチンコ遊技機

2009年
- 4月 「CRレーザーシャトル」
- 5月 「CRサンダーバード 国際救助隊発進！」
- 7月 「CR桃太郎侍 天に代わって鬼退治致す！」
- 9月 「CR相川七瀬 時空の翼」
- 10月 「CRダイ・ハード」
- 12月 「CR新暴れん坊将軍 吉宗危機一髪！」

2010年
- 1月 「CRアレ！キング」
- 2月 「CR宇宙戦艦ヤマト3」

パチスロ遊技機

2009年
- 5月 「COBRA ―THE SLOT―」
- 10月 「パチスロ エイリアンVSプレデター」

Q2 当期の結果を踏まえて、次期はどのような重点施策をお考えですか。

A2

「稼働力の向上」を最重点課題と位置づけました。企画・開発部門の体制を一から見直すことで、ファンの皆様が、ワクワク・ドキドキできるような演出の研究を強化し、パチンコホールで長期間にわたり高稼働を維持できる遊技機を開発していく考えです。

また、遊技機の研究開発とともに、費用対効果をふまえた販売促進活動や、部材管理面での材料ロスの削減など、コスト管理の強化を図ることにより、利益計画の着実な達成をめざします。

次期の重点施策

1 稼働力の向上

○長期間の稼働を実現する要素の追求
（版権・演出・ゲーム構成など）

○豊かなゲーム性を実現する新機能、
アイデア創出への継続的な取り組み

○幅広いファン層に対応したスペックの充実
（多様化するファンのニーズへの対応）

2 利益計画の着実な達成

○販売計画の達成
販売戦略、プロモーション戦略の再構築

○収益力の強化
研究開発費、広告宣伝費などへの資源の
最適配分

○材料ロスの低減
部材管理システムの確立

Q3 今の市場環境を見据えた、事業別の方針についてもお聞かせください。

A3

パチンコ遊技機市場では、今年も注目タイトルが次々と発売されるでしょう。そのため、「お客様目線」を徹底した開発の推進や、より効果的なタイミングで新機種を市場投入することで、販売台数の達成を確かなものにしていきます。

また、パチスロ遊技機では、市場環境を見極めた機種開発を行い、一定の販売台数を確保していく考えです。

Q4 最後に、株主還元に対する基本的な考え方を教えてください。

A4

当社は、企業価値の向上とともに、株主の皆様に適正な利益還元を図ることを経営の重要課題と位置づけています。そのため、配当につきましては、継続した配当を基本方針としつつ、経営成績および配当性向などを総合的に勘案し、実施してまいります。

今後とも株主の皆様には変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

今までの時代劇パチンコにはない、エキサイティングな確変システム。
豪華キャストによる完全撮り下ろし映像を使用した圧倒的迫力を誇る演出。
打つ者の心を躍らせ、見る者の目を奪う、かつてない程の興奮の連続が
時代劇パチンコの新たな歴史を切り拓く！

ヒト味違う時代劇パチンコ

新ゲーム性登場！

CR 新暴れん坊将軍 吉宗危機一髪！ ©東映

新筐体

Crystal Fire クリスタル ファイヤー

迫力ある光と音の演出はもちろん、チャンスボタンとの
連動で演出をさらにアツく盛り上げる
業界初のラッキーパトを搭載した新筐体「Crystal Fire」。
美しさとインパクトの両方を兼ね備えた新筐体が
新暴れん坊ワールドの魅力を存分に引き立てます！！

経営成績に関する分析

当期の経営成績

当事業年度におけるわが国経済は、様々な経済政策などにより、個人消費や企業の業況判断に持ち直しの動きが見られたものの、完全失業率は5%前後で推移するなど、依然として厳しい状況にあります。

パチンコホール業界におきましては、パチンコ・パチスロともに低貸玉営業が広く定着したことや、パチンコでは、手軽に安く遊べるタイプの遊技機の充実が図られたことなどから、近年、減少傾向にあったパチンコ参加人口が増加に転じ、平成20年度では前年比130万人増の1,580万人((財)日本生産性本部「レジャー白書2009」)となりました。

遊技機業界におきましては、パチンコ遊技機では、パチンコホールにおいてパチンコ遊技機を中心とした営業展開が継続したことなどから、パチンコ遊技機市場全体の販売台数は前事業年度を上回る結果となりました。しかしながら、大量導入されるのは、一部の話題性の高い機種や人気シリーズの後継機種のような、高水準の稼働が見込める機種に絞り込まれる傾向となりました。

また、パチスロ遊技機の稼働状況は依然として低迷しており、新台入替につきましても、有力機種に厳選して導入が進んだことから、パチスロ遊技機市場全体の販売台数としては低調に推移いたしました。

このような状況のもと当社は、多様化するファンのニーズにマッチした、“ヒト味違う”多種多様なジャンルの遊技機を市場投入し、販売台数の確保に努めてまいりました。パチンコ遊技機では、上半期は概ね順調に推移したものの、下半期以降、厳しい商戦を強いられたことにより、通期では販売台数、損益面ともに前事業年度を大幅に下回る結果となりました。また、パチスロ遊技機では、当初3機種を投入する計画としておりましたが、第4四半期に販売を予定していた1機種について、作り込みの強化により販売を来期に延期したこともあり、販売台数は低調に推移いたしました。

以上の結果、当事業年度の業績につきましては、売上高461億86百万円(対前年同期比18.7%減)、営業利益46億57百万円(同42.9%減)、経常利益45億58百万円(同44.7%減)、当期純利益23億33百万円(同54.0%減)となりました。

事業の部門別の状況は次のとおりであります。

●パチンコ遊技機事業

パチンコ遊技機事業につきましては、上半期では、前事業年度に発売した「CR宇宙戦艦ヤマト2」シリーズを継続販売したことに加え、「CRレーザーシャトル」シリーズ(平成21年4月発売)、「CRサンダーバード 国際救助隊発進!」シリーズ(平成21年5月発売)、液晶画面に落下する般若面役物による演出が好評を得た「CR桃太郎侍 天に代わって鬼退治致す!」シリーズ(平成21年7月発売)、“ヒト味違う”スペックによる爽快な出玉感が話題となった「CR相川七瀬 時空の翼」シリーズ(平成21年9月発売)を市場投入いたしました。また、下半期では、「CRダイ・ハード」シリーズ(平成21年10月発売)、業界初の「ラッキーパト」を搭載した新本体枠「クリスタルファイヤー」第1弾「CR新暴れん坊将軍 吉宗危機一髪!」シリーズ(平成21年12月発売)、「CRアレ!キング」シリーズ(平成22年1月発売)、「CR宇宙戦艦ヤマト3」シリーズ(平成22年2月発売)を市場投入いたしました。

以上の結果、販売台数は156千台(対前年同期比19.5%減)、売上高は458億38百万円(同16.7%減)となりました。

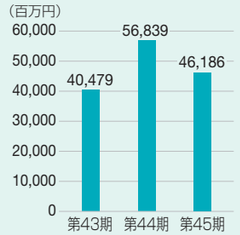
●パチスロ遊技機事業

パチスロ遊技機事業につきましては、SFアクション漫画とのタイアップ機種「COBRA −THE SLOT−」(平成21年5月発売)、SF映画とのタイアップ機種「パチスロ エイリアンVSプレデター」(平成21年10月発売)を市場投入いたしました。

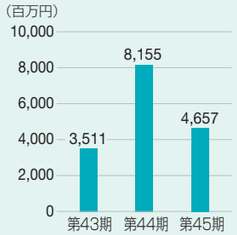
以上の結果、販売台数は1千台(対前年同期比79.2%減)、売上高は3億47百万円(同80.6%減)となりました。

財務ハイライト

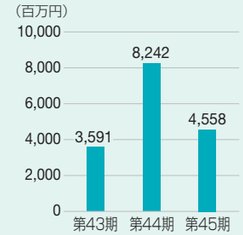
■ 売上高



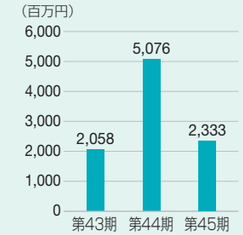
■ 営業利益



■ 経常利益



■ 当期純利益



次期の見通し

国内経済では、企業収益に改善が見られるものの、景気の先行きについては不透明な要素も多く、個人の生活防衛意識が高まっており、レジャーに対する支出抑制の傾向も強まっております。このような状況を受け、パチンコホールでは低貸玉営業の充実を進めたことなどにより、近年、減少が続いていたパチンコ参加人口は増加へと転じました。パチンコ・パチスロが手軽に遊べる大衆娯楽としてファンの皆様に見直される契機となる一方、パチンコホールでは貸玉料の引き下げにともなう収益減少を補うため、従来にも増して稼働を重視した営業が求められており、経営環境は依然として厳しい状況が続いております。

この傾向は今後も継続するものと考えており、当社では、多様化するファンのニーズを満たすことにより、安定した稼働力を備えた遊技機の供給を通じて、パチンコホールの営業力強化にも貢献してまいりたいと考えております。

次期につきましては、当社にとっての大きな転換期であると認識し、機種開発の方向性について十分な検証を行うとともに、商品性向上に向けた企画・開発体制の再構築を図ってまいります。このため、売上高では前年実績を下回る見通しですが、機種毎の販売計画を着実に達成し、収益力向上、コスト削減に対する取り組みを強化することにより、利益面では前年実績を上回る水準を確保してまいります。

パチンコ遊技機では、本年4月中旬から、SFコメディ映画とのタイアップ機種「CRゴーストバスターズ」の納品を開始しております。今後発売予定の新機種につきましても、作り込みの強化を図り、稼働力を備えた新機種を効果的なタイミングで市場投入することにより、販売台数の確保に努めてまいります。

パチスロ遊技機につきましては、準備が整い次第、順次新機種を発売してまいります。パチスロ遊技機の稼働は低迷を続けておりますが、“ヒト味違う”魅力的な商品性を備えた新機種を開発し、市場への安定供給を行います。

以上の状況を踏まえ、通期の業績見通しにつきましては、売上高427億円(対前年同期比7.5%減)、営業利益48億円(同3.1%増)、経常利益49億円(同7.5%増)、当期純利益30億円(同28.6%増)といたします。

※遊技機の製造・販売については、風営法等に定める「技術上の規格」への適合について、指定試験機関による型式試験および各都道府県公安委員会による検定を受ける必要があります。
上記の業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、遊技機の型式試験の適合状況をはじめ、今後の様々な要因により、予想数値と異なる結果となる可能性があります。

■ 貸借対照表

単位：百万円

科　目	当事業年度 (H22.3.31現在)	前事業年度 (H21.3.31現在)
資産の部		
流動資産	**42,755**	**41,307**
現金及び預金	26,398	26,190
有価証券	1,704	2,101
受取手形	3,026	1,878
売掛金	5,297	5,065
たな卸資産	3,079	3,670
繰延税金資産	1,563	714
その他	1,684	1,685
固定資産	**14,145**	**14,559**
有形固定資産	**8,575**	**9,417**
建物	2,369	2,499
機械及び装置	771	1,120
工具器具備品	957	1,317
土地	4,362	4,363
その他	115	116
無形固定資産	**178**	**188**
投資その他の資産	**5,391**	**4,952**
投資有価証券	1,698	1,518
長期前払費用	2,836	2,571
繰延税金資産	594	555
その他	260	308
資産合計	**56,900**	**55,866**

科　目	当事業年度 (H22.3.31現在)	前事業年度 (H21.3.31現在)
負債の部		
流動負債	**12,312**	**12,512**
買掛金	8,280	6,978
未払金	1,998	1,439
未払法人税等	1,423	2,785
賞与引当金	296	460
その他	313	848
固定負債	**1,492**	**1,391**
退職給付引当金	731	623
その他	760	768
負債合計	**13,804**	**13,903**
純資産の部		
株主資本	**43,088**	**41,966**
資本金	3,281	3,281
資本剰余金	3,258	3,258
利益剰余金	36,549	35,426
評価・換算差額等	**7**	**△3**
その他有価証券評価差額金	7	△3
純資産合計	**43,096**	**41,962**
負債純資産合計	**56,900**	**55,866**

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 損益計算書

単位：百万円

科　目	当事業年度 (H21.4.1～H22.3.31)	前事業年度 (H20.4.1～H21.3.31)
売上高	**46,186**	**56,839**
売上原価	27,593	33,651
売上総利益	**18,592**	**23,188**
販売費及び一般管理費	13,934	15,033
営業利益	**4,657**	**8,155**
営業外収益	222	174
営業外費用	322	87
経常利益	**4,558**	**8,242**
特別利益	61	30
特別損失	50	21
税引前当期純利益	**4,568**	**8,252**
法人税、住民税及び事業税	2,227	3,458
過年度法人税等	904	―
法人税等調整額	△896	△282
当期純利益	**2,333**	**5,076**

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科　目	当事業年度 (H21.4.1～H22.3.31)	前事業年度 (H20.4.1～H21.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,449	9,860
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,031	△3,890
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,209	△1,082
現金及び現金同等物の増減額	208	4,887
現金及び現金同等物の期首残高	26,190	21,303
現金及び現金同等物の期末残高	26,398	26,190

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 株主資本等変動計算書

当事業年度 (H21.4.1～H22.3.31)

単位：百万円

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
前期末残高	3,281	3,258	35,426	41,966	△3	△3	41,962
当期変動額							
剰余金の配当			△1,211	△1,211			△1,211
当期純利益			2,333	2,333			2,333
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					10	10	10
当期変動額合計	―	―	1,122	1,122	10	10	1,133
当期末残高	3,281	3,258	36,549	43,088	7	7	43,096

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

インフォメーション（H22.3.31現在）

会社概要

設　立	昭和41年10月1日
本　社	大阪市中央区内本町一丁目1番4号
従業員数	378名
事業内容	パチンコ遊技機・パチスロ遊技機の開発、製造、販売

役員

代表取締役社長	松元 邦夫
取締役副社長	松元 正夫
専務取締役	井上 孝司
常務取締役	永田 和政
取締役	松元 恵子
取締役	辻田 隆
社外取締役	坪本 浩一郎
社外取締役	川添 嗣夫
常勤監査役	近藤 邦博
常勤監査役	川西 耕司
社外監査役	堀 弘二

事業所

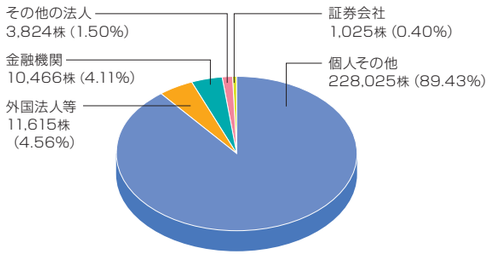
名古屋事業所（名古屋工場および開発部）
東京開発事業所

東京支店	横浜営業所	広島営業所
大阪支店	八王子営業所	高松営業所
札幌営業所	静岡営業所	福岡営業所
青森営業所	名古屋営業所	熊本営業所
仙台営業所	金沢営業所	鹿児島営業所
千葉営業所	京都営業所	
埼玉営業所	神戸営業所	

株式の状況

1）発行可能株式総数	800,000株
2）発行済株式の総数	254,955株
3）株主数	6,438名

所有者別株主分布



4）大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
松元 邦夫	95,560	37.48
松元 正夫	65,626	25.74
釣谷 香揚子	24,280	9.52
吉田 嘉明	4,239	1.66
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	4,221	1.66
藤商事従業員持株会	2,757	1.08
松元 恵子	2,600	1.02
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	2,443	0.96
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口9）	1,199	0.47
MELLON BANK TREATY CLIENTS OMNIBUS	1,135	0.45

トピックス

■ 社会貢献活動への取り組み

藤商事では、良き企業市民として地域社会との良好な関係を築くため、積極的に社会貢献活動に取り組んでまいります。

● 各地のクリーンアップ活動に参加

・クリーンおおさか2009

大阪市が主催する市内の一斉清掃活動に、本社および大阪支店の従業員が参加し、事業所近辺の清掃活動を行いました。

・荒川クリーンエイド

関東地区に展開している各事業所から、従業員と家族あわせて70名が参加し、荒川の清掃活動を行いました。

・大江川クリーン作戦

名古屋事業所から、従業員と家族が参加し、大江川の沿道および水路の清掃活動を行いました。

● 環境保全活動への参加

平成21年11月に開催されました日遊協（社団法人 日本遊技関連事業協会）主催の植樹ボランティア活動に参加し、「共生の森（埼玉県嵐山町）」で植樹活動を行いました。

ホームページ紹介

藤商事のホームページでは、皆様に楽しんで頂けるよう、様々な情報をご提供しています。

藤moRU 携帯メディアを使った情報サービスも行っています。

藤商事公式携帯サイトでは、多彩なコンテンツを公開中！！

CONTENTS
・アプリ　・着うた　・待受画像　・待受アプリ
・着メロ　・着ボイス　・動画　・待受フラッシュ

i-mode	EZweb	Yahoo! ケータイ
iメニュー	トップメニュー	メニューリスト
メニュー/検索	カテゴリで探す	
趣味/娯楽	懸賞・くじ・ギャンブル	ケータイゲーム
パチンコ/パチスロ	パチンコ/パチスロ	パチンコ・パチスロ

● 「i-mode」及び「i-モード」は株式会社NTTドコモの登録商標です。
● 「EZweb」はKDDI株式会社の登録商標です。
● 「Yahoo! ケータイ」及び「Yahoo!」「Y！」のロゴマークは、米国Yahoo! Inc.の登録商標または商標です。

月額315円（税込）

株主メモ

株主名簿管理人　大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所　大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社　証券代行部

郵便物送付先　〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社　証券代行部

電話照会先　0120-176-417

ホームページ　http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html

BUSINESS REPORT

ヒト味違う"オモシロ"さ！
FUJI

http://www.fujimarukun.co.jp

PRINTED WITH SOY INK

この冊子は環境に優しい大豆インキを使用しています。
再生紙を使用しています。